



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和4年4月27日 第1号(19-54)

発行責任者: 校長 関田 誠

『大宮中精神: 優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ!』

5/16 (月) 朝礼校長講話 『”授業が勝負”にいつ気付くか』

GW が明け、三週間後には運動会を控える中で、授業が本格的に動き出しています。皆さんの授業に向かう態度は、全体として良い雰囲気、合格点です。今朝は三年の学年だよりから、「三年生になっての決意」の作文を紹介しながら、授業について考えます。

『三年生になって』 M.Y

三年生になって、初めての授業を受けたとき、一、二年生の頃の授業と三年生になってからの授業への姿勢の変化に驚きました。まず、全体が先生の言葉一つ一つに細心の注意を払うようになったことです。今までは、あまり気にしていなかったような内容にも必死に耳を傾けるようになりました。しかし、成績や受験という言葉に、とても敏感になって、授業中のみんなの雰囲気が少し重くなってしまったのも確かです。私は授業に楽しく取り組んでいるみんなの姿が好きだったので、実際、少し残念でした。

また、授業を、いつも以上に真剣に取り組む代わりに、それぞれが昼休みを思い思いに楽しんでいる姿が多く見られました。この授業中と昼休みの違いから、時間への切り替えがとても早くなったと思います。きっちりとした空気から、リラックスをして遊ぶという、この切り替えが最も大切なのだと改めて実感しました。

三年生になって今まで以上に受験について考えなくてはならなくなりました。今までのテストとは違って私のこれからの人生を大きく変えてしまうものなので、真剣に考えていきたいです。また去年は中止になった行事が多く、心残りのある一年になりました。だから、今年は中学校生活最後の一年として、たくさんの思い出を作っていきたいです。

昼休みの大切さが伝わります。もし昼休みがなかったら暴動が起きそうです(笑)。さて、私が大宮中に着任して5年目になりますが、二階の教室と三、四階の授業中の空気の密度の違いはずっと感じていたことでした。三年生の授業は、集中力や注意力が違うのです。理由は明白です。いよいよ目の前に進路選択の時、一つのゴールが見えたことへの、全体としての気付きです。三年生のにとっては、この春に全員の心構えが整ったということです。一方で、一・二年生は切迫したゴールが見えません。毎日伸び伸び授業を受ける雰囲気は当然です。どこで自分の進路や生き方を真剣に意識するかは個人差があります。早ければ良いという訳ではありませんが、三年生の中には、(もうちょっと早く、今の集中力で授業に向き合っていれば良かったな)という思いの人もいます。一・二年生も、三年生の姿勢を感じて、毎日の授業に細心の注意を払って、理解と思考を深めていくことです。毎時間のその意識の差の積み重ねが、デカいのですね。

先週授業を見に行くと、時々舟をこぎだす「春分暁を覚えず」状態の人がいました。春の陽気につられてというよりは、部活動やクラブチームの練習の疲れが残っている人でした。ちょっと心配です。そういえば、以前こんな生徒がいました。授業中に突然、「先生〜」「ん?何だね?」「睡魔に負けそうなので、立って授業を受けていいですか」。教室は爆笑です。その生徒は、外のクラブで激しい練習を重ねながら、勉強も頑張っている生徒でした。「後ろの人は大丈夫かな?」と聞くと、笑ってOKしてくれました。その生徒は時々立って授業を受けて、睡魔と戦っていたようです。日中の授業で起きていられないほど運動をすることは心配ですが、本人がやりたいことをやりながら(クラブですね)、やるべきことをやろうとする(授業ですね)、両立の姿勢が立派でした。ただし、中学生に適度な休養としっかりした睡眠は絶対に必要です。一学期後半、授業と放課後の活動や運動会の練習を両立させる工夫をしていきましょう。DOノートも活用して、良い習慣への工夫を重ねてください。皆さんを応援しています。

4

7(木)

第76回 入学式

4

16(土)

キャリアデザイン講座

働く人の話を聴く会(2学年)

卒業生の話を聴く会(3学年)